

我が家の防災計画

甲陵中学校

二年

河西

晃希

かさい

こうき

僕の家裏には八人山があります。夏休み中は僕の部屋の窓から山のすそ野に広がる緑色のふぶきの葉がこすれ合い涼しい風を運んでくれます。考え事をしている時や集中して勉強しようとする前には必ず八人山を眺めるのが習慣です。心が安らぎ、ストレスも取り去ってくれる八人山は僕にとって大切な場所です。

僕の父は甲府市消防団甲運分団第三団に所属して団長を務めています。近所で火事が起こった時は夜中でもすぐにかけつけて行きま

す。最近では高齢者の方が家を出たまじり行方不明になり、三日間も捜索したこともありました。その時父は、僕に「山はこわいぞ。少し奥に入り込めど、自分がどこに居るのかわ

なく分かんなくなると、自分でどこに居るのかわ

地域はごろごろした石が多いか、足元に気を

つけないと足を踏み外してしまったりと、言い

僕は「山はおそろしいな」と思いました。

その間に、父が部屋から、防災ハザードマップを持ってきて見せてくれました。甲府盆

地は笛吹川や釜無川をはじめとして、多くの

河川が流水していて水害が発生しやすい自然条

件下にあることがわかりました。また、二〇

〇四年十月には台風二十三号によって大雨と

なりました。甲府市善光寺町で土砂崩れが発

生し、床上浸水や糟もしてしま。たことを知

りました。僕は家の近くでこのように土砂災害

害が起きていたことは全然知りませんでした。

いつも折々の四季を楽しませてくれている山

が、大きな岩や鉄砲水と共に自分の家に押し

寄せてきたら本当におそろしいと思いました。

もしもそうなら、たさどうしようと思ひ、不安

になりました。僕はまが、どこへ逃げればい

いのかと頭をめぐらせました。

我が家の場合、北側が山なので、そこか

ら土砂が押し寄せてくるのだから、南側へ逃げ

るのではなく、東西のどちらかには逃げ

良策だと思いましたが、でも、起きてから逃げ
るのは難しいことだと思いましたが、むしろ、
絶対に無理だということに気がつきました。
だから、土砂災害が起きる前に、危険を察
知して避難することか大切だと思いましたが。
ハカドマップのパンフレットで調べたところ、
山鳴りがしたり、腐った土の臭いがあった
り、井戸や沢の水が濁るなど、普段と違った
ことが起きたと、土砂災害が起きる前兆なの
だと分かりました。幸いハカドマップには
家の周りには土砂災害警戒区域ではありませ
んでした。でも僕は、東日本大震災では想定外
の高さの津波がきたり、五年前には広島県で
大規模な土砂災害が起きました。たくさんの人達
が亡くなったりしました。たこのとき思うと、この地
域も災害が起ころ可能性はゼロではないので、
災害に備えなければいけないと思います。
僕は、もし日中家族が離れている時に災害が
起ころてしまったら大変なので、非常時の避
難場所や連絡方法などを普段から話し合っ
て

おこうと思いましたが、

両親や兄は携帯電話を持っていたので、携帯の災害用伝言板を利用すればいいと思います。また、僕は公衆電話を毎日利用するので近くに公衆電話があれば利用しようと思いましたが、災害時には多少かかりやすい優先電話になっていた。そうそう、「伝言ダイヤル171」という電話の音声伝言板サービスなどいろいろな連絡方法があること分かりました。

また、家族で避難場所をどこにするか話し合っていて、我が家から近い避難所かどこかで近か。た東公民館に決めました。家族で話をすうちに、非常持ち出し品の準備をしておこうと、いこうにになりました。僕はまず、水、食料、タオル、懐中電灯、と言いつつ、兄が「着かえたらジーンズ、タイタースーツ、薬」と、みんなが必要なものを書き出していきましました。家にあつたりユツクサツクに詰め込んでおきました。トイレットペーパー、タオル、トボトルの水など結構かさばったり、重たか

こたりして、意外と荷物が多くなってしま
ことか分かりました。了代表にまよめて、玄關
のげた箱の棚に置くことに決めました。
以前、テレビで防犯の番組をしていて食ハ
物は「ロッキングストック」をさすのをさす
めていました。古い物か、使い、使った分た
け購入していくやり方です。これを我が家で
も実践することになりました。

今回、土砂災害について考えてみて、減災
についてよく分かりました。けれども、学ん
だ防犯の知識はあくまで知識であり、実践で
きかければ意味がたいと思えます。もちろん
知識があるのとないのでは雲泥の差がありま
す。しかし、使えなければ知識は無いても同然
となく、てしまします。だから、どんな時でも
冷静に判断して行動できるようになりたいで
す。